

[軽吐]ドセタキセル+アバステン(ベバシズマブ)療法

外科

処方医:

適応症:乳癌

3週を1コースとし投与をくりかえす

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
ドセタキセル	●																						●
アバステン	●																						●

身長: _____ cm 体重: _____ kg 体表面積 _____ m²

[投与スケジュール] (_____ クール目)

Day1(月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食250mL [3時間 点滴静注]	1瓶	生食 50mL デキサート注 [30分 点滴静注]	1袋 6.6mg
		生食250mL ドセタキセル60~75mg/m ² [1時間] [壊死性] アレルギー症状注意 特に初~2回投与時 ほぼ10分 以内 投与中1時間観察	1瓶
		生食100mL アバステン 10mg/kg 投与時間注意*[非炎症性] インフュージョンリアクション注意	1瓶
		生食20mL [静注]	1管

* 初回投与時は90分 初回の認容性が良好であれば2回目の投与は60分間で行ってもよい。

2回目の投与においても認容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与することができる

DAY1(月 日)~3(月 日)

薬剤名	投与量
デカドロ錠	1回4mgを4回内服(当日昼食後、翌日朝食後、翌々日朝食後)

[適正使用基準]

1. PS(Performance Status)が0~2である	[DLF] ドセタキセル 白血球減少 好中球減少 ドセタキセル:肝機能障害時 ドセタキセル 今回 _____ mg 累積 _____ mg
2. 好中球が2000未満ではない	
3. 感染症を合併していない	
4. 重篤な骨髄抑制がない	
5. 間質性肺炎または肺線維症がない	
6. 肝障害がない	
7. 腎障害がない	
8. 浮腫がない	
9. 重篤な心障害がない	
10. 喀血(2.5mL以上の潜血の喀出)がない	
11. 脳転移がない(原則禁忌)	
12. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。	

血液一般検査	WBC	4000以上が望ましい	
	Neut	2000以上	
	PLT	10万以上が望ましい	
	HGB	8.0以上が望ましい	
血清生化学検査	AST	82.5以下が望ましい	
	ALT	105以下が望ましい	
	TBil	1.95以下が望ましい	
	Cr	1.05以下が望ましい	
	Ccr	60以上が望ましい	
	Mg	1.7~2.5	
	K	3.5~5.0	
	Na	135~146	
	Ca	8.7~11	
	P	2.5~4.7	
	蛋白尿	2+で投与可	
心電図検査	異常がないことが望ましい		

肺機能検査 PO2	60Torr以上が望ましい	
-----------	---------------	--

[骨髄抑制を考慮した投与量の調節]

WBC (/μL)	4000 ≤	2000 ≤	<4000	<2000
HGB (g/dL)	11.0 ≤	8.0 ≤	<11.0	<8.0
PLT (/μL)	10万 ≤	5万 ≤	<10万	<5万
ドセタキセル	100% 慎重投与			投与中止

初回投与量	1段階減量	2段階減量
70mg/m ²	60mg/m ²	50mg/m ²
60mg/m ²	50mg/m ²	休薬

[重大な副作用]

《アバステン》

- ・消化管穿孔(突然起こる強い腹痛)
- ・創傷治癒遅延
- ・原発巣からの出血(下血)
- ・肺転移巣からの出血(喀血)
- ・脳転移巣からの出血(突発性の意識障害、神経障害、頭痛、嘔気・嘔吐、めまい)
- ・動脈血枯(胸痛)
- ・動脈血枯(突発性の意識障害、神経症状、嘔気・嘔吐、めまい)
- ・高血圧に伴う緊(頭痛、視力障害、意識障害、悪心・嘔吐)
- ・可逆性後白室脳症症候群
- ・ネフローゼ症候群(蛋白尿)
- ・ショック、アナフィラキシー様症状
- ・好中球減少症
- ・うっ血性心不全(呼吸困難、乏尿、体重の変化)

《ドセタキセル》

- ・ショック、アナフィラキシー様症状〔呼吸困難・気管支痙攣・血圧低下・胸部圧迫感・発疹等〕
- ・間質性肺炎〔咳・息切れ・呼吸困難・発熱等〕
- ・心不全〔呼吸困難・むくみ等〕
- ・播種性血管内凝固症候群(DIC)
- ・腸管穿孔、胃腸出血〔腹痛・吐血・下血等〕
- ・浮腫・体液貯留
- ・心筋梗塞〔胸痛・呼吸困難等〕